

ペスタロッチー教育賞 受賞者紹介

日本生活教育連盟委員長
日本子どもを守る会会長

なか の 光 氏
中野 光氏

中野光氏は、1929年愛知県に生まれ、16歳のとき海軍兵学校で終戦を迎えた。何も信じられるものがないという心境の中で、当時国民学校校長をしていた父、力氏に「世の中で尊敬し、信頼できる人があるのか」と尋ねたところ「そう聞かれたらペスタロッチーだな」と答えられ、これがペスタロッチーとの最初の出会いであったと語っている。1953年東京文理科大学教育学科を卒業後、桐朋学園教員を経て、1959年から2000年まで金沢大学、和光大学、立教大学、中央大学等で教育学の教育と研究に尽力してきた。

中野氏の大学教員、教育研究者としての業績はすでに知られているとおもひ傑出したものであり、主要著作である『大正自由教育の研究』（1968年、毎日出版文化賞受賞）のほか、『教育改革者の群像』（1976年）、『戦後の子ども史』（1987年）また『中野光教育著作選集』（全3巻、2000年）等に示されている。これらの研究業績は、単に欧米の教育理論を紹介したり適用したりするものではなく、日本の教育実践を精緻に分析し、その本質精神を浮き彫りにしたものであって、そこには子どもに注ぐ氏の温かいまなざし、ペスタロッチーの精神が貫かれている。加えて氏の研究業績の中で主要な位置を占めるものとして、日本のペスタロッチー運動史、運動を担った人物たちの研究がある。沢柳政太郎、野口援太郎、長田新をはじめとする「日本のペスタロッチー」たちにあらためて光をあてた氏の功績は大きい。

このように中野氏の教育研究は、ペスタロッチー精神を日本の教育実践の中で新たに捉えなおしたものであり、理論的研究とその実践的展開を連関させたという点で高く評価される。これが今回のペスタロッチー教育賞受賞の一つの理由である。

第二の、そしてより高く顕彰されるべき理由として、中野氏によるペスタロッチー教育精神の実践活動があげられる。氏は、「日本生活教育連盟」（1948年創立）に参画し、現在、委員長の要職にある。この団体は文字どおり「生活が陶冶する」というペスタロッチーの理念に基づいて日本の子どもの真の教育に取り組んできており、牽引者としての氏の功績は多大なものである。また、氏は長田新や羽仁説子によって創設された「日本子どもを守る会」（1952年創立）の会長職を受け継ぎ、戦後の激動する社会の中で生活する子どもの現実を直視し、子どもとともに生きるというこの会の実践を先導している。日本全国各地で展開されている活動は、未来をつくる子どもたちの文化創造、平和希求運動、あるいは『子ども白書』の公刊として、今日まで広範で高い成果をあげてきている。

中野光氏の活動は、ペスタロッチー教育精神の理論的研究、その日本の教育実践への架橋、さらに自らによる実践的展開においてきわめて高く評価される。戦後から現在に至るまでの日本の子どもがおかれていた困難な生活現実を理論的に照らし出し、その実際の克服に取り組んだ50年に及ぶ氏の活動は、まさにペスタロッチーの精神と「教育の原点」を体現するものである。中野光氏の長年にわたる多大な功績に対し、第13回ペスタロッチー教育賞を贈呈し、高く顕彰したい。